

合まで三軒三許。

カシハテウチ 勝氏 天平三年の越前國正
税帳に江沼郡主政膳長屋がある。古事記に
『大畷古命之子比古伊那許志別命。此者膳臣
之祖也。』とあつて、臣の姓を有するもある
が、この長屋は未だ姓を有せざる氏族であら
う。遠祖比古伊那許志別命の子彦屋主田心命
は高志國造の祖で、道君の如きもその子孫で
あるから、膳氏も此等の關係で北陸に繁衍し
たのであらう。

カシハノ 柏野 江沼郡四十九院谷に屬す
る部落。

カシハノ 柏野 石川郡に屬する。應永廿
一年四月十九日足利義持教書に、『加賀國中略
柏野二分二中略 早任相傳知行之旨倉光藤増丸
可領掌狀如件。』とある。今上柏野・下柏野・荒
屋柏野がある。

カシハノウチ 柏野氏 白山宮莊嚴講中記
録、嘉祿二年九月に社官桓野二郎大夫氏綱・
子息彌太郎氏寛・小大夫氏利があり、安貞二
年四月には白山神官渡人柏野太郎氏實があ
る。桓野は柏野の誤寫で、共に石川郡柏野の
人であらう。

カシハノウリ 柏野瓜 實曆の調書に、『大
堅瓜、荒屋柏野村』とある。石川郡荒屋柏野
附近の堅瓜を金澤では柏野瓜といひ、奈良漬
に用ひた。

カシハノジヨウ 柏野城 江沼郡柏野に在
つた。北陸七國志に、永祿十年十一月加越の
和睦調ひ、十二月一揆方の柏野・杉山松山、越
前方の黒谷・檜屋・大聖寺城を毀つたとある。
江沼志稿にはこの城は山中村領の上平堡のこ
とで、柏野が隣邑だから柏野城ともいうたの

であらうと記してゐる。

カシハノテラ 柏野寺 江沼郡柏野に在つ
た。白山記に、『白山五院。柏野中宮温泉寺極
樂寺小野坂大聖寺。』と見え、那谷明王院日
記には、『於柏野寺二横北衆請待之時見梅作
枝』とて左衛門少尉官原光任の詠歌がある。
明王院日記は天文二十年頃から永祿二年まで
の筆記であるといふから、その比はまだ柏野
寺が存してゐたと見える。同村に白山社のあ
るのは、柏野寺の鎮守であつたらう。

カシハラ 檉原 珠洲郡直郷に屬する部落。
もとは廣國・鳥越・西方寺と稱する入會の三村
であつたが、明治八年十月合して檉原とし
た。この邑名は廣國の枝村柏原に加志波良比
古神社の鎮座するによつたものである。

カシハラジンジャ 加志原神社 鳳至郡寺
山に鎮座する。式内等舊社記に、『加志原神
社。町野郷寺山村鎮座。稱加志原明神。』と
ある。

カシハラヒコジンジャ 加志波良比古神社
珠洲郡檉原(もと廣國の枝村柏原)に鎮座す
る。式内等舊社記に、『加志波良比古神社。式
内一社。直郷柏原村鎮座。舊傳云。往昔近郷
七十箇村總社也。』といひ、又能登名跡志に
は、『加志波羅比古の神社立ち給ふ。其所を小
名に柏原といふ也。昔は大社なり。珠洲郡式
内の三社の其一なり。其別當跡というて、庵
の薬師といふあり。吼木山の下寺なりしとい
へり。』と見える。社藏木造藏王權現像體高三
四厘は鎌倉末期乃至室町初期の作と認められ
るもので、その足部は後補である。

カシマ 鹿島 江沼郡吉崎の入江の中にあ
る。三州大略水經に、吉崎瀆の中に島があつて
鹿島といふ。大聖寺鎮である。鹿島明神の宮守
は萬寶院といふ日蓮宗であるが、五十年前か
ら七面明神を祭つたとある。又芳徳紀聞には、
今加島から加島道によつて湖岸に接續し、こ
のあたり一般に砂に埋りつゝあるとの事を記
して居るが、今は島の一面全く陸地と連絡し
てゐる。萬寶院は萬法院と書くのが正しく、
今廢絶して居る。島の名を加島と書くも良く
ない。この島上の社叢は有名なものである。
カシマノシヤソウ 鹿島の社叢。

鹿島といふ。大聖寺鎮である。鹿島明神の宮守

カシマ 鹿島 石川郡長屋庄に屬する部落。
能登名跡志に、『鹿島村は乙ノ崎より一里半あ
り。磯山に鹿島大明神の社あり。』とある。

カシマ 鹿島 鳳至郡南北郷に屬する部落。

カシマケンギヨウ 鹿島檢校 前田利常時
代の御唱衆の一人であつた。俸三十俵を受
け、遺跡はその子石丸吉丞に傳へられた。異
本微妙公夜話録に、『鹿島檢校が屋敷は、今の
津田正流・石丸新八の屋敷なり』とあつて、檢
校が權現堂丸の後の堀端の松を拜領したいと
願うた談が載せられてゐる。石丸新八の屋敷
が西町であつたことは、享保九年の土帳に見
える。

カシマゴウ 加島郷 能登郡の古郷名。加
之萬と訓する。萬葉集の香島津、延喜主税寮
式諸國運送功賃の條にいふ加島津は、當に此
の郷にあるべきわけであり、矢張今の七尾附
近であらう。能登志徴には後世の南北郷だと
して居るが、従ふことを得ぬ。

カシマゴホリ 鹿島郡 能登四郡の一。中
古から能登郡の古名を失ひ、鹿島郡と唱へた
のを、寛文十一年七月十二日前田綱紀は命じ
て、もとの能登郡に復したが、其の後元祿十

三年八月二十日再び鹿島郡とした。これら兩

回の改稱は、幕府に地圖を提出するに當つて、
幕府當局の指揮に基づいたものである。鹿島
郡の名の因つて起る所以は明らかでないが、
王朝の香島津又は加島郷と深く關係すること
は想像に難くなく、承久三年注進の能登國田
數目錄に既に鹿島郡と書かれてゐる。

カシマゴホリ 賀島郡 永光寺の洞谷清規
に載せられたる元亨中臺山の文には鹿島郡を
多く賀島郡と記し、又その肉書のものには總
持寺文書永祿六年八月九日僧等喜の寄進狀
に、『能州賀島郡津向山慈濟寺前住月印端珠座
元禪師爲入牌不禮燈之島日千疋、并相添鐵燈
籠一箇、奉寄進佛殿者也。』と記されてゐる。
蓋し佳字を擇んだので、禪僧などの間に一時
行はれたものと見える。

カシマザキ 鹿島崎 珠洲郡の北、折戸の
西北端にある岬。海に出ること三〇〇米餘。
カシマジンジャ 鹿島神社 鳳至郡鹿島に
在り、それより四軒を距る大嶽の御前に奥社
の舊址がある。式内等舊社記に、『鹿島神社。
南北郷鹿島村鎮座。稱鹿島明神。此地邊往古
能登郡加島郷加島津也云々。』とあるが、本文
加島津の説は必ずしも従ふを得ぬ。又能登誌
に、『磯山に鹿島明神の社あり。北の谷内に要
石として異なる大石あり。』といふは、常陸國鹿
島神宮にある要石に擬へた名であらう。

カシマチ 鹿島路 鹿島郡金丸保に屬する
村落。文永六年十月一宮社務職年貢納帳にそ
の名が見える。この村は一宮から鹿島郡に入
る道の口なるが故にかく呼ばれたのであらう
といふ。

カシマチクヘエ 鹿嶋路九兵衛 長氏に仕

カシ